



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



京都大学 人と社会の未来研究院

『社会的共通資本と未来』寄附研究部門創設記念シンポジウム

Beyond Capitalism

～拡張する社会的共通資本～

令和4年 7月23日 土曜日 13:00▶17:00

京都大学 稲盛財団記念館3階大会議室

P R O G R A M

オープニングトーク

「創設を祝して」 久能祐子（京都大学 理事）
「社会的共通資本とは」 占部まり（宇沢国際学館 代表取締役）

基調講演

「協生農法と拡張生態系～自然-社会共通資本のビジョンと本研究部門の方法序説～」
船橋真俊（京都大学 人と社会の未来研究院 社会的共通資本と未来寄附研究部門 特定教授）

講演 1

「経済学からみる社会的共通資本」 小島寛之（帝京大学 経済学部 教授）

講演 2

「ポスト資本主義のビジョン」 広井良典（京都大学 人と社会の未来研究院 教授）

講演 3

「寄附と利他行動の未来」
渡邊文隆（信州大学 社会基盤研究所 特任講師／京都大学 経営管理大学院博士後期課程）

パネルディスカッション

「理論と実装の両輪の意義」ファシリテート 占部まり（宇沢国際学館 代表取締役）

閉会の挨拶

宇佐美文理（京都大学 副学長／人と社会の未来研究院長／文学研究科 教授）

司会 川村健太（京都大学 人と社会の未来研究院 社会的共通資本と未来寄附研究部門 特定准教授）



社会的共通資本 Social Common Capital

経済学者・宇沢弘文が提唱した概念。すべての人びとが、ゆたかな経済生活を営み、すぐれた文化を展開し、人間的に魅力のある社会の安定的な維持を可能にする自然環境と社会的装置。市場原理主義から独立し守ることが社会の成熟に重要であるとしている。



オンラインと対面の ハイブリッド形式

（オンラインは同時通訳での実施）

※対面、現地参加は招待制です

オンラインでの参加500名まで

連絡先／申込先：京都大学 人と社会の未来研究院 担当事務

E-mail: ifohs-jimu@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

主催：京都大学 人と社会の未来研究院 社会的共通資本と未来寄附研究部門

共催：宇沢国際学館

参加
無料

参加申し込み方法

右記QRコードより事前にお申し込みください。

申し込み締切：令和4年7月20日（水）17時



登壇者プロフィール(登壇順)



久能 祐子 Sachiko Kuno 京都大学 理事

京都大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。日米両国で起業し、緑内障・高眼圧症治療剤「レスキュラ点眼液」発売(1994年)、慢性便秘症治療薬「アミティーザ」販売承認取得(2006年)、革新的ワクチン開発を目指すVLPセラピューティクス共同創業(2012年)。社会起業家としては、S&R 財団理事長兼 CEO、Halcyon Incubator 理事会名誉議長(共同創業者)、株式会社フェニクス取締役(共同創業者)を務める。そのほか、ジョンズ・ホプキンス大学(医療系)理事、ヘンリー・L・スティムソン・センター理事等を務める。2020年4月より京都大学理事(非常勤)。主な受賞に、Forbes誌「アメリカで自力で成功を収めた女性50人」選出(2015年)、「エイボン女性年度賞 2016 大賞」(2017年)、「Harvard Business School club of Japan Business Stateswoman of the Year for 2016」(2017年)および「ワシントン・ビジネス・ホール・オブ・フェーム殿堂入り」(2018年)等がある。



占部 まり Marie Uzawa Urabe 宇沢国際学館 代表取締役

シカゴにて宇沢弘文の長女として生まれる。東京慈恵会医科大学卒業。内科医。1992～94年メイヨークリニック・ポストドクトラルリサーチフェロー。地域医療に従事するかたわら宇沢弘文の理論をより多くの人に伝えたいと活動をしている。2015年3月には国連大学で国際追悼シンポジウム開催、2019年に日経SDGsフォーラム共催『社会的共通資本と森林』『社会的共通資本と医療』など。日本メント・モリ協会代表理事、日本医師会国際保健検討委員。JMA-WMA Junior Doctors Network アドバイザー。



船橋 真俊 Masatoshi Funabashi 京都大学 人と社会の未来研究院 社会的共通資本と未来寄附研究部門 特定教授

物理学博士。株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所シニアリサーチャー・プラネタリーナビゲーショングループ長。株式会社 Syneco 代表取締役社長。一般社団法人シネコカルチャー代表理事。獣医師免許資格保持。人間活動によって生物多様性を増進し、社会と生態系の持続可能性を支える文明装置としての「拡張生態系」を研究・実装している。食料生産を主眼としたシネコカルチャー(協生農法・Synecoculture)をはじめ、砂漠や都市の緑化、教育や生態系リテラシーの向上を目指すシネコポータル(Syneco Portal)、環境の質と連動した健康・福祉の在り方などに幅広く活動を展開中。社会課題解決型の再生可能エネルギーや、AIを用いたESG/SDGs 債券の評価も推進。社会的共通資本や自然資源の再生産過程を含めて、持続可能な豊かさの基盤となる自然・社会共通資本の実現に世界各地で取り組む。



小島 寛之 Hiroyuki Kojima 帝京大学 経済学部 教授

東京大学理学部数学科卒業。同大学院経済学研究科博士課程単位取得退学。経済学博士。数学エッセイスト。宇沢弘文の薫陶を受け、経済学の道に進む。著書に、『宇沢弘文の数学』(青土社)、『使える! 経済学の考え方』(筑摩新書)、『確率的発想法』(NHKブックス)、『暗号通貨の経済学』(講談社選書メチエ) など多数。



広井 良典 Yoshinori Hiroi 京都大学 人と社会の未来研究院 教授

東京大学教養学部卒業、同大学院修士課程修了後、厚生省勤務、千葉大学教授を経て2016年より京都大学教授。この間、2001～02年MIT 客員研究員。専攻は公共政策及び科学哲学。環境・福祉・経済が調和した「定常型社会＝持続可能な福祉社会」を提唱。社会保障、都市・地域等に関する政策研究から、ケア、死生観等に関する哲学的考察まで幅広い活動を行っている。鎮守の森コミュニティ研究所所長。『日本の社会保障』でエコノミスト賞、『コミュニティを問いなおす』で大仏次郎論壇賞受賞。他の著書に『定常型社会』(岩波新書)、『ポスト資本主義』(同)、『人口減少社会のデザイン』(東洋経済新報社)、『無意識の人類史』(同) など多数。



渡邊 文隆 Fumitaka Watanabe 信州大学 社会基盤研究所 特任講師／京都大学 経営管理大学院博士後期課程

大学時代にあしなが学生募金での街頭募金や、ブラジル・ウガンダの非営利組織での長期インターンを行う。京都大学総合人間学部を卒業後、環境ビジネス企業でのマーケティングや、省庁関連のプロジェクト、非営利組織のファンドレイジング支援等を担当。2013年から2019年度末まで京都大学 iPS 細胞研究所にて寄付募集に従事。2020年度からは、ファンドレイジング実務の傍ら博士後期課程に在籍し、寄付をマーケティングの観点から研究。『寄付白書 2021』の執筆に参加したほか、国立研究開発法人による資金調達活動活性化のための人材育成手法開発に関する調査(2020年度)では有識者委員を務めた。日本ファンドレイジング協会大学チャプター、日本NPO学会、研究・イノベーション学会、International Society for Third-Sector Research 等に所属。



宇佐美文理 Bunri Usami 京都大学 副学長／人と社会の未来研究院長／文学研究科教授

京都大学文学研究科博士後期課程研究指導認定。信州大学教養部、同人文学部、京都大学人文科学研究所を経て、現在は文学研究科教授。2020年10月より副学長[教育推進(人文学)担当]、2022年4月より人と社会の未来研究院長。専攻は中国哲学史。中国の芸術理論、特に絵画理論を専門としている。著書に『中国藝術理論史』(2015年・創文社)『中国絵画入門』(2014年・岩波新書)など。



川村 健太 Kenta Kawamura 京都大学 人と社会の未来研究院 社会的共通資本と未来寄附研究部門 特定准教授

京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻修了後、組織・人事系のコンサルティング会社に入社。各種組織開発案件、人材開発案件に従事。その後、事業会社にて、経営企画、インキュベーション業務、産学連携を担当。2018年京大オリジナル株式会社設立に合わせ入社。「京大の知」のアウトリーチ活動、各種セミナー企画、大学の知の事業化など、複数の案件を担当。2022年社会的共通資本と未来寄附研究部門特定准教授に兼任。

